尿中ポドサイト数の推移を確認したループス腎炎の一例

◎横山 千恵[1)]、渡部 慎之介[1)]、根本 大輔[1)]、井上 真由[1)]、根岸 知恵[1)]、南木 融[1)]
筑波大学附属病院[1)]

【はじめに】尿中ポドサイトは糸球体傷害のバイオマーカーとして有用性が報告されているが、報告されている検出方法は免疫蛍光染色を用いたものである。日常検査で用いられている Sternheimer 染色(S 染色)で尿中ポドサイトが検出できることをわれわれは過去に報告している。今回、S 染色における尿中ポドサイト数の推移を確認したループス腎炎の一例を報告する。

【症例】16 歳女性．生来健康で、20XX-1 年まで学校検診で異常を指摘されたことはなかった。20XX 年 5 月から発熱があり、一旦解熱したものの、顔面・下腿の浮腫が出現し、微熱がみられるようになった。6 月上旬に他院受診、血蛋白尿、Alb1.9 g/dL とネフローゼ症候群を呈しており、緊急入院となった。若年女性で急性発症したネフローゼ症候群で、発熱・血尿や心嚢液貯留を認め、全身性エリテマトーデス(SLE)が疑われたため、精査加療目的に当院転院となった。腎障害、リンパ球減少、抗核抗体陽性、免疫異常(抗 DNA 抗体・抗 CLβ2GP 抗体・抗 SS-A 抗体陽性)が認められ ACR 分類より SLE と診断された。また、腎生検の結果、ループス腎炎(Ⅳ型(A))と組織診断された。

【経過】入院時の尿検査の結果、蛋白尿(UP)は 3.6 g/gcre、尿中ポドサイトは 5-9/WF 認められた。ステロイドパルス療法、後療法プレドニゾロン(PSL)に加え、免疫抑制剤ミコフェノール酸モフェチル(MMF)の併用により、治療開始 9 週の時点で UP0.89 g/gcre まで改善した。尿中ポドサイトは、治療開始後も 5-9/WF 認められていたが、治療開始後 11 日目に 1-4/WF に減少、29 日目(UP3.7 g/gcre)には認められず、以降も認められることはなかった。

【考察】われわれは、移植後巣状糸球体硬化症において、尿中ポドサイト(免疫蛍光染色法)数の早期の消失の後に腎機能の悪化なく蛋白尿が改善したことを確認している。今回、同様の結果が得られたことから、尿中ポドサイト(S 染色)数の推移も、治療効果判定のバイオマーカーのひとつになる可能性が示唆された。

連絡先 029-853-3722